



## 自分の心と向き合って <二つのメッセージ>

### 「いじめをしている人は、自分では気づいてはいない」

6月5日(水)古川人権擁護委員協議会の千田善明先生をお迎えして、5年1組で「いじめはなぜいけないのか」という授業を行いました。先生は子どもたちへ向けて熱意を込めて、一言一言しっかり伝えてくださいました。

(千田先生から子どもたちへ)

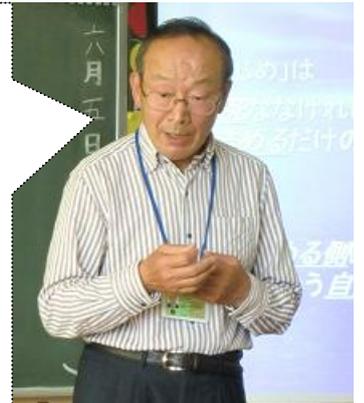
ここにコップがあります。これは、「悲しみのコップ」と言います。

私達の体の中にあるのですが外からは見えません。いやなことをされたり、悲しいことがあると、このコップに悲しみの涙がたまっていくのです。

最初のうちは大丈夫でも、だんだんと悲しみの涙がたまって、もういっぱいになったとき、生きることは、その人にとってただ辛いことだけになってしまいます。

今、涙でいっぱいになっているコップを持っている人がいたとして、その水は、一滴の「悲しみ」であふれてしまいます。うざい、きもい、死ね、くさい、ぶた、などの言葉を皆さんも口にしたことがあるでしょう。

それが、いじめ、友だちを悲しみにおとし入れる一滴なのです。



<授業後の児童の感想より>

- 涙のコップを知って、それを絶対にためさせてはいけないと思いました。私のクラスでいじめがあったら、一人じゃ無理かもしれないので、みんなで協力していじめをやめさせようと思います。
- 人をいじている人はいじているということにあまり気が付いていませんが、いじめられている人は、とても悲しい気持ちになっている。いじている人がいたら、自分で気づいてほしいなと思います。
- いじめはブレーキの壊れた車のようです。だから、それは、とめられるのは、みんなで協力してとめるしかありません。
- いじめをしている人は、自分ではわからないところが怖いなあとと思いました。わたしは、いじているかなあと心配になりました。これからは、悪ふざけをしないようにしたいと思います。

## 「もし、あなたにいじわるの気持ちが出てきたら」

(5月29日(水)お話朝会での校長先生の話から)



もし、いじわるをしたいという自分の気持ちに気付いたら、その気持ちを、だれかに話してほしい。とにかく話して、自分の心から追い出してほしい。

おとうさんやおかあさん、先生たちに話してほしい。  
友達でもいい…。

心は目では見えません。とにかく誰か話しやすい人に話してほしい。いじわるをしたいとき、みんなの心はスッキリしていないはず。いじわるしたい気持ちから早くさよならしてほしい。

いじめはいけない。それは、頭ではわかっている。それをわかっているみんなに問いかけたい。「いじめ」につながる自分のこころの「いじわる」に気付いたなら、だれかの助けをかりてでも、間違いをなおせる子になってほしい。大人はみんな受けとめてくれます。